



代表取締役社長

水越 浩士

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

平素は、格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、当社は、平成14年9月30日をもちまして第150期の上半期が終了いたしましたので、ここに営業の概況をご報告申し上げます。

当上半期のわが国経済は、輸出がアジア向けを中心に増加したものの、個人消費や設備投資が伸び悩むなかでデフレ圧力の強まりを受け、景気は厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で、当社は、総コスト削減に向けた諸施策を実行する一方で、収益の確保に向けて最大限の努力を払ってまいりました。当上半期の連結決算につきましては、売上高は、国内景気の低迷により鋼材およびアルミ・銅などの素材系事業が伸び悩んだものの、機械関連事業が堅調に推移したことに加え、電力卸供給事業において発電所が営業運転を開始したことなどにより、前年同期並みの5,773億円となりました。経常利益は100億円となり、税引き後の中間純利益は52億円となりました。

また、当上半期の単独決算につきましては、売上高は前年同期並みの3,894億円、経常利益は74億円となり、税引き後の中間利益は45億円となりました。

当期の中間配当につきましては、平成14年3月末におきまして欠損金を計上いたしましたことから、商法の規定により実施することができません。株主の皆様には、誠に申し訳なく存じますが、事情ご賢察のうえ、何卒ご理解賜わりますようお願い申し上げます。

当社が新たな中核事業として推進している電力卸供給事業につきましては、神戸製鉄所において神鋼神戸発電所

1号機(発電規模70万キロワット)の営業運転を本年4月1日より開始し、操業を行なっております。平成16年4月には現在建設中の2号機と合わせて、140万キロワット体制が整い、都市型発電所として神戸市内の電力自給率の大幅な向上に寄与することとなります。本事業の推進にあたりましては、環境の保全への配慮はもちろんのこと、発電所の安定操業を通じて社会・地域に貢献してまいりたいと存じます。

溶接材料につきましては、川崎製鉄株式会社との間で同事業の強化のため、研究開発、生産、調達に関する提携関係構築の検討を進めております。

アルミ・銅関連事業では、当社のリードフレーム部門を子会社のリードミック株式会社に営業譲渡し、本年10月1日より新たに神鋼リードミック株式会社として事業を行なっております。この事業統合により、一貫製造体制の確立、生産性の向上を推し進め、より幅広く需要家のニーズに対応してまいります。

また、機械関連事業では、本年10月、破碎機事業において、川崎重工業株式会社との間で、営業・設計部門を統合した合弁会社の設立を骨子とする基本合意書を締結いたしました。今後は、合弁会社の詳細および製造部門を含めた事業統合に向けての協議を進めてまいります。

今後の見通しにつきましては、米国経済の先行き不透明感、不良債権の処理問題に端を発する国内景気の長期低迷不安などの不安定要因により、事業を取り巻く環境は厳しさを増していくものと懸念されます。

このような状況の中、当社は、本年11月に、新日本製鐵株式会社との連携関係を一層強化するとともに、住友金属工業株式会社との間でも新たに連携を行なうことで合意いたしました。この3社間連携は相互の株式保有を含むものであり、従来以上に踏み込んだ施策を実行していくことにより、鉄鋼関連事業の効率化とコストダウンによる収益力の強化につなげてまいります。

また、全社的にも「事業の選択と集中」による事業構造の変革を一段と加速させるとともに、従来の視点にとられない収益構造改革を強力に推し進めることにより、安定的な収益体質を構築し、欠損金の早期解消、有利子負債の圧縮による財務体質の改善を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成14年12月